

**Microsoft®
Windows Server™ 2003 R2,
Standard x64 Edition/
Microsoft®
Windows Server™ 2003 R2,
Enterprise x64 Edition**

インストール補足説明書
for Express5800/120Ba-4

はじめに

本手順書は、**Windows Server 2003 R2 x64 Editions for Express5800/120Ba-4 対応 NEC 差分モジュール**を使用して、「**Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Standard x64 Edition** / **Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Enterprise x64 Edition 日本語版**」（以降、「Windows Server 2003 R2 x64 Editions」と呼ぶ）をインストールする方法について記述しています。

Windows Server 2003 R2 x64 Editions をインストールする前に、必ず最後までお読みください。

注意 Windows Server 2003 R2 x64 Editions for Express5800/120Ba-4 対応 NEC 差分モジュールは、Express5800/120Ba-4 対応 の専用モジュールです。他の装置ではご使用できません。

■ Windows Server 2003 R2 x64 Editions へのアップグレードについて

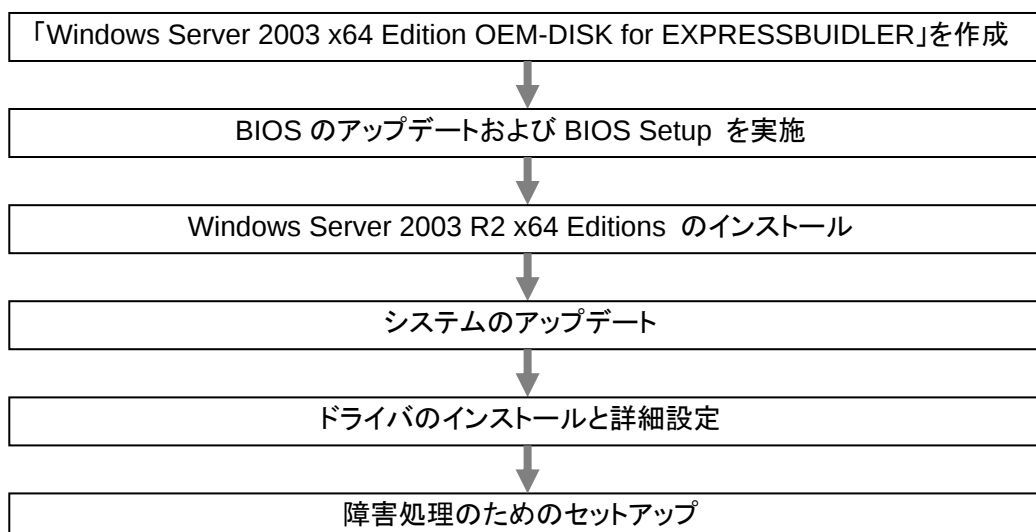
Windows Server 2003 x64 Editions からWindows Server 2003 R2 x64 Editionsへのインプレースアップグレードは、ファイルやレジストリを上書する場合があるため、システムやアプリケーションへ思わぬ影響を与える可能性がありますので、推奨しません。

Windows Server 2003 R2 x64 Editions をご使用になる場合は、「**Windows Server 2003 R2 x64 Editions のインストール**」を参照し、事前に必要なユーザデータのバックアップを取り、Windows Server 2003 R2 x64 Editions をインストールしなおしてください。

ヒント インプレースアップグレードとは、既にインストールされている Windows Server 2003 x64 Editions 自身を Windows Server 2003 R2 x64 Editions へ上書きアップグレードすることです。

Windows Server 2003 R2 x64 Editions インストール手順概略

Windows Server 2003 R2 x64 Editions のインストール方法概略図を以下に示します。



Windows Server 2003 R2 x64 Editions をインストールするための準備

■ インストールに必要なもの

Windows Server 2003 R2 x64 Editions インストールを開始する前に、以下の媒体と手順書がそろっていることを確認してください。

- **Windows Server 2003 R2 x64 Editions for Express5800/120Ba-4 対応 NEC 差分モジュール**（以降、「NEC 差分モジュール」と呼ぶ）

『NEC8番街』 <http://nec8.com> →

[サポート情報] → [ダウンロード(Express5800)]を参照し、入手してください。

- **Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER**

（または 1.44MB フォーマットの 3.5 インチフロッピーディスク1枚）

作成方法は“「Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」の 作成”（本書）を参照してください。

- **Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Standard x64 Edition / Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Enterprise x64 Edition インストール補足説明書 for Express5800/120Ba-4**（本書）

- 次のいずれかを用意してください。

ーバックアップ CD-ROM Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition DISC 1
（以下、「バックアップ CD-ROM」と呼ぶ）と

Microsoft Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition DISC 2 (2 枚組)

（以下、「Windows Server 2003 R2 x64 Edition DISC 2」と呼ぶ）

ーバックアップ CD-ROM Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition DISC 1
（以下、「バックアップ CD-ROM」と呼ぶ）と

Microsoft Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition DISC 2 (2 枚組)

（以下、「Windows Server 2003 R2 x64 Edition DISC 2」と呼ぶ）

ーMicrosoft Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition DISC 1

（以下、「Windows Server 2003 x64 Edition CD-ROM」と呼ぶ）と

Microsoft Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition DISC 2 (2 枚組)

ーMicrosoft Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition DISC 1

（以下、「Windows Server 2003 x64 Edition CD-ROM」と呼ぶ）と

Microsoft Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition DISC 2 (2 枚組)

- Express5800 シリーズをお買い上げ時に添付されているもの

ー **EXPRESSBUILDER CD-ROM**

ー **ユーザーズガイド**

（EXPRESSBUILDER CD-ROM 中のマスターコントロールメニューから「オンラインドキュメント」を参照してください）

ー **ブレード収納ユニットユーザーズガイド**

■ ヒント

フロッピーディスクなどを用意していただく必要がある場合があります。詳細はユーザーズガイド(「ローカルインストールに必要なもの」)を参照してください。

■ NEC 差分モジュールのダウンロードについて

「Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」を作成する場合や、「システムのアップデート」を行うときは、あらかじめ以下の手順で Express5800/120Ba-4 対応の NEC 差分モジュールをダウンロードしてください。

- (1) 次の URL の OS 関連のページを参照し、Express5800/120Ba-4 対応の NEC 差分モジュールをダウンロードしてください。
『NEC8番街』 <http://nec8.com>
→ [サポート情報] → [ダウンロード(Express5800)]
- (2) モジュールをダウンロード後、ハードディスク上の任意のフォルダに展開する。
(例: C:\TEMP)

注意 ダウンロード先のフォルダには、空白文字を含むフォルダは指定できません。

■ 「Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」の作成

インストールを始める前に「Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」と呼ばれるフロッピーディスクが必要です。

以下の手順にしたがって作成してください。

ヒント 「Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」(本装置用)を作成済みの場合は、再度作成する必要はありません。

次の手順で作成します。

- (1) 1.44MB フォーマット済み 3.5 インチの空フロッピーディスクを1枚用意する。
- (2) オペレーティングシステム(OS)を起動する。
- (3) NEC 差分モジュールをダウンロードする。
(「NEC 差分モジュールのダウンロードについて」(本書)参照)
- (4) フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクをセットする。
- (5) 以下のフォルダ配下の全ファイルをフロッピーディスクにコピーしてください。

＜展開先フォルダ名＞¥WINNT¥OEMFD¥W2K3AMD¥FD1

コピー終了後、
「Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」
の作成は完了です。

作成した「Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」は、ライトプロテクトをし、ラベルを貼って大切に保管してください。

注意事項

Windows Server 2003 R2 x64 Editions をインストールする前に**注意事項**をよく読んでください。

インストールを始める前に、ブレード収納ユニットにキーボード・ディスプレイ装置・CD-ROM ドライブ・フロッピーディスクドライブなどが正しい構成で接続されていることを確認してください。接続されていない場合は、必ず接続してください。

■ ライセンス認証の手続きについて

バックアップCD-ROMを使用する場合、ライセンス認証済みの状態でインストールされます。その他のOS CD-ROMを使用する場合、Windows Server 2003 R2 x64 Editions のライセンス認証の手続きが必要です。手続きを行う際に使用するプロダクトキーは、Windows Server 2003 R2 x64 Editionsに含まれるCOAラベルに記載されたものと一致させる必要があります。

- 重 要**
- インストールしてから 30 日以内にアクティベーションを行ってください。30 日間を過ぎると、システムがロックされる場合があります。
 - COA ラベルは本体に貼り付けられている場合があります。

■ ダイナミックディスクへの再インストールについて

ダイナミックディスクにアップグレードしたハードディスクドライブに再インストールする際、OS をインストールするパーティション以外にパーティションが存在し、そのパーティションを残したい場合は、次の点について注意してください。

- OSをインストールするパーティションには、前にOSをインストールしていたパーティションを選択してください。
- OSパーティションのフォーマットについては、「現在のファイルシステムをそのまま使用（変更なし）」を選択してください。

■ BIOSのアップデート

Windows Server 2003 R2 x64 Editions をインストールするためには、EXPRESSBUILDER CD-ROMを用いて、Windows Server 2003 x64 Editions 用 のBIOS のアップデートが必要な場合があります。

BIOSのアップデートが必要かどうかは、『NEC8番街』 <http://nec8.com> → [サポート情報] → [ダウンロード(Express5800)]を参照し、対応モジュールの有無を確認してください。また、アップデート手順に関しては、各装置のBIOS ダウンロード時の紹介文、およびダウンロードデータに含まれる「Readme.txt」を参照してください。

■ 作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションのサイズは次の計算式から求めることができます。

インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ
+ アプリケーションサイズ

インストールに必要なサイズ = 4100MB
 ページングファイルサイズ(推奨) = 搭載メモリサイズ × 1.5
 ダンプファイルサイズ = 搭載メモリサイズ + 1MB
 アプリケーションサイズ = 任意

重要

- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(ダンプファイル)採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 搭載メモリサイズやデバッグ情報の書き込み(メモリダンプ種別)に関係なく、ダンプファイルサイズの最大は「搭載メモリサイズ+1MB」です。
- その他アプリケーションなどをインストールする場合は、別途そのアプリケーションが必要とするディスク容量を追加してください。

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、パーティションサイズは、前述の計算方法から

$4100\text{MB} + (512\text{MB} \times 1.5) + 512\text{MB} + 1\text{MB} + \text{アプリケーションサイズ} =$
 $5381\text{MB} + \text{アプリケーションサイズ}$

となります。

システムをインストールするパーティションサイズが「インストールに必要なサイズ+ ページングファイルサイズ」より小さい場合はパーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してください。ダンプファイルサイズを確保できない場合は、次のように複数のディスクに割り当てることで解決できます。

- (1) 「インストールに必要なサイズ+ ページングファイルサイズ」を設定する。
- (2) 「障害処理のためのセットアップ」を参照して、デバッグ情報(ダンプファイルサイズ分)を別のディスクに書き込むように設定する。

ダンプファイルサイズを書き込めるスペースがディスクにない場合は「インストールに必要なサイズ+ ページングファイルサイズ」でインストール後、新しいディスクを増設してください。

1 Windows Server 2003 R2 x64 Editions のインストール

ここでは、**Windows Server 2003 R2 x64 Editions** のローカルインストール方法について説明します。次の手順に従ってインストールします。

1. 電源を ON して CPU ブレードを起動する。

重要 Windows Server 2003 用の BIOS のアップデートが必要な場合は、アップデートを行ってください。BIOS のアップデートが必要かどうかは、『NEC8番街』
<http://nec8.com>→[サポート情報]→[ダウンロード(Express5800)]を参照し、
 対応モジュールの有無を確認してください。

ディスプレイ装置の画面に POST (Power On Self-Test) の実行内容が表示されます。
 (「NEC」ロゴが表示された場合は<Esc>キーを押してください。)
 しばらくすると、次のメッセージが画面左下に表示されます。

Press <F2> to enter SETUP

2. <F2>キーを押し、BIOS Setup メニューの「Advanced」→「Installed O/S」を「PnP O/S」に設定する。設定方法は機種によって異なりますので、詳しくは装置の BIOS ダウンロードデータに含まれる「Readme.txt」を参照してください。
3. BIOS Setup メニューの「Exit」→「Save Changes & Exit」を選択し、[Yes]を選択してシステムを再起動させる。
4. バックアップ CD-ROM または Windows Server 2003 R2 x64 Edition CD-ROM を CD-ROM ドライブまたは DVD-ROM ドライブにセットする。
5. バックアップ CD-ROM または Windows Server 2003 R2 x64 Edition CD-ROM を CD-ROM ドライブまたは DVD-ROM ドライブにセットしたら、リセットする (<Ctrl>+<Alt>+キーを押す) か、電源を OFF/ON して CPU ブレードを再起動する。

重要 ハードディスク上に起動可能な OS がインストール済みの場合は、画面上部に「Press any key to boot from CD...」が表示されている間に<Enter>キーを押してください。起動可能な OS が存在しない場合は不要です。

CD-ROM からシステムが立ち上がり、CPU ブレードが起動します。

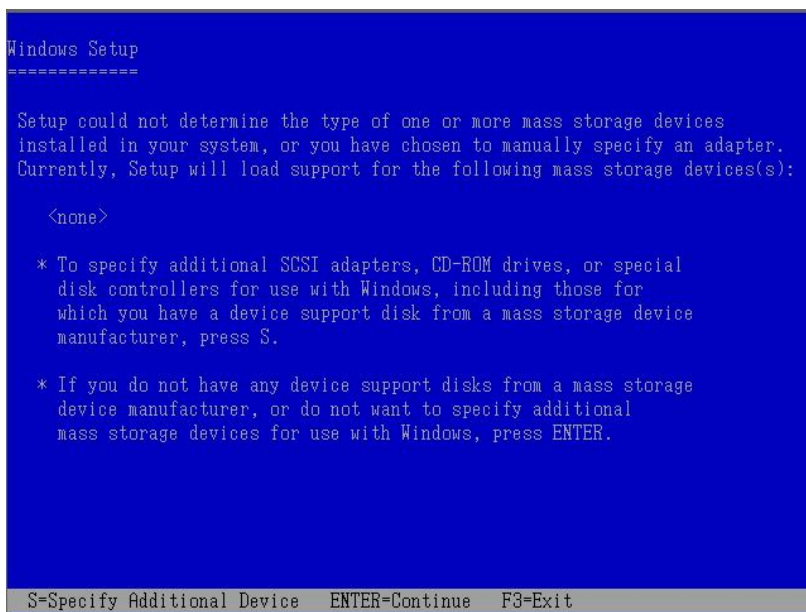
Windows Server 2003 R2 x64 Editions のセットアップ画面が表示されます。画面が表示されなかった場合は、<Enter>キーが正しく押されていません。システムの電源を ON し直してから始めてください。

6. 画面上部に「Setup is inspecting your computer's hardware configuration...」が表示されている間に<F6>キーを押す。

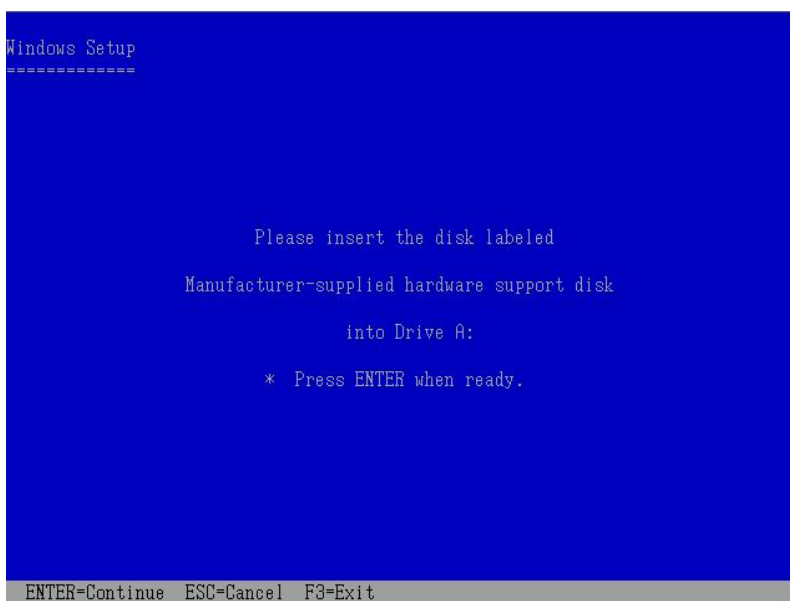
ヒント

- <F6>キーを押しても、画面上には何の変化もあわれられません。
- USB フロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯しているとき (フロッピーディスクへのアクセスがないとき) にキー入力してください。

7. 以下のメッセージが表示されたら<S>キーを押す。



- 以下のメッセージが表示されます。



8. Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER をフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

SCSI アダプタのリストが表示されます。

Adaptec HostRAID を使用している場合は、手順 9 へ進む。

Adaptec HostRAID を使用しない場合は、手順 10 へ進む。

9. [Adaptec HOSTRAID driver for Windows XP/2003 x64 Edition]を選択し、<Enter>キーを押す。
10. N8403-015 FibreChannel コントローラを使用している場合は、再度<S>キーを押す。
N8403-015 FibreChannel コントローラを使用しない場合は、手順 13 まで進んでください。

11. Windows Server 2003 x64 Edition OEM-DISK for EXPRESSBUILDER をフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

SCSI アダプタのリストが表示されます。

12. [Emulex LPX000 PCI-Fibre Channel HBA]を選択し、<Enter>キーを押す。

以下のメッセージが表示されます。

The driver you provided seems to be newer than the Windows default driver.
Windows already has a driver that you can use for "Emulex LPX000 PCI-Fibre Channel HBA".
Unless the device manufacture prefers that you use the driver on the floppy disk, you should use the driver in Windows.

<S>キーを押す。

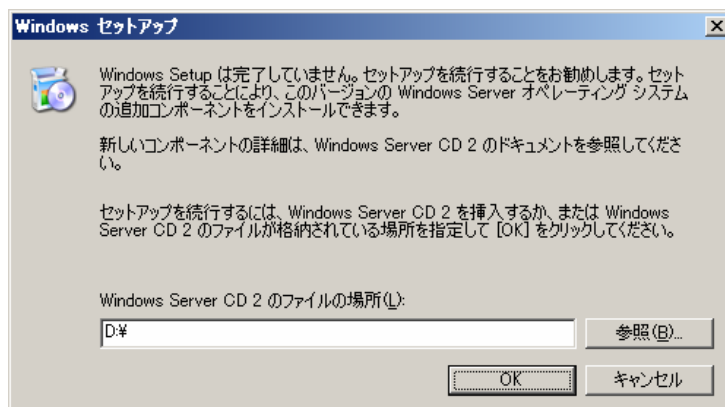
重要 ここで<Enter>キーを押さないでください。
正しいドライバがインストールされなくなります。

13. <Enter>キーを押す。

以降は、メッセージに従って作業を続けてください。
インストールの詳細については、「ファーストステップガイド」を参照してください。

14. Windows Server 2003 x64 R2 Editions インストール後、自動的に再起動する。

15. システムにログオンした後、[Windows セットアップ]画面が表示される。



- 重要**
- このとき、[Windows セットアップ]画面が表示されない場合がありますが、以降の手順に従って Microsoft Windows Server 2003 R2 x64 Editions DISC 2 を必ずインストールしてください。
 - 「システムのアップデート」を行った後でも、Microsoft Windows Server 2003 R2 x64 Editions DISC 2 のインストールは可能です。必ず Microsoft Windows Server 2003 R2 x64 Editions DISC 2 をインストールしてください。このとき、[Windows セットアップ]画面 は表示されませんのでご注意ください。

16. Windows Server 2003 R2 x64 Editions DISC 2 を CD-ROM ドライブにセットする。
設定内容を確認し[OK]をクリックする。
17. インストール終了後、Windows Server 2003 R2 x64 Editions DISC 2 を CD-ROM ドライブから取り出し、再起動する。
18. Windows Server 2003 R2 x64 Editions インストール終了後、「システム管理者（例：Administrator）」の権限を持ったユーザーでログオンしてください。
19. **システムのアップデート**を参照して地域情報レジストリ書き込みファイルの実行とシステムのアップデートを行う。（「3. システムのアップデート」（本書）参照）
20. **ドライバのインストールと詳細設定**を参照してドライバのインストールと詳細設定をする。（「4. ドライバのインストールと詳細設定」（本書）参照）
21. **障害処理のためのセットアップ**を参照しセットアップをする。（「障害処理のためのセットアップ」（本書）参照）
22. **システム情報のバックアップ**（装置添付のユーザズガイド参照）を参照しセットアップを完了してください。
23. **USB CD-ROM ドライバのインストール**の必要な場合は（N8460-001 外付 CD-ROM を使用する場合のみ・詳細は外付 CD-ROM ドライブに添付の説明書を参照）インストールをする。
24. **N8405-013/020 内蔵フロッピーディスクドライブのドライバのインストール**の必要な場合は（N8405-013/020 ブレード収納ユニットに実装する場合のみ・詳細はブレード収納ユニットユーザズガイドを参照）インストールをする。

2 管理用リモートデスクトップについて

Windows Server 2003 R2 x64 Editions をご使用の場合に必要な管理用リモートデスクトップの設定について説明します。

重要 管理用リモートデスクトップを使用するのに、有償のターミナルサーバークライアントアクセスライセンスは必要ありません。管理用リモートデスクトップは、最大2つの同時接続が可能です。

チェック カスタムインストールモデルをご購入の場合は、管理用リモートデスクトップの設定はありません。

■ Windows Server 2003 R2 x64 Editions の場合

次の手順にしたがって設定します。

重要 管理用リモートデスクトップを使用するためには、administrator にパスワードの設定が必要です。

1. スタートメニューから[コントロールパネル]を選び、[システム]をクリックする。
2. [リモート] タブを選択し、[リモートデスクトップ]項目の[このコンピュータにユーザーがリモートで接続することを許可する]をチェックし、[OK] をクリックする。

3 システムのアップデート

Windows Server 2003 R2 x64 Editions のインストール後、必ず以下の手順で地域情報レジストリ書き込みファイル(JAPAN.REG)の実行と、システムのアップデートを行ってください。

NEC 差分モジュールをダウンロードしていない場合は、「Windows Server 2003 R2 x64 Editions をインストールするための準備」の「NEC 差分モジュールのダウンロード」を参照し、ダウンロードしてください。

重要 次の場合も必ずシステムのアップデートをしてください。

- システム構成を変更した場合
(内蔵オプションの機器の取り付け/取り外しをした場合。システム構成を変更した後、再起動を促すダイアログボックスが表示される場合は[いいえ]をクリックし、システムをアップデートしてください。)
- 修復プロセスを使用してシステムを修復した場合
- バックアップ媒体からシステムをリストアした場合

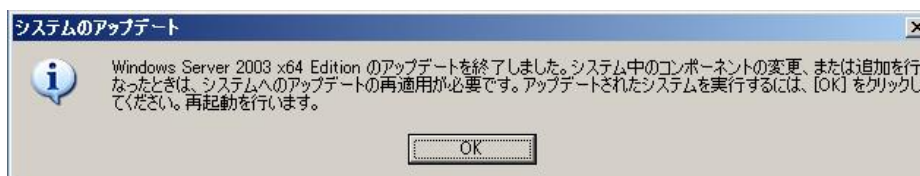
1. 管理者権限のあるアカウント(administrator 等)で、システムにログオンする。
2. 地域情報レジストリ書き込みファイル **JAPAN.REG** を実行する。

書き込み確認のメッセージが表示されるので[はい]を選択する。

3. <展開先フォルダ名>¥WINNT¥W2K3AMD¥UPDATE.VBS を実行する。
セットアップメッセージが表示されます。

画面のメッセージにしたがって作業を進めてください。

4. 以下のメッセージが表示されたら、[OK] をクリックしてシステムを再起動させる。



4 ドライバのインストールと詳細設定

本装置標準装備の各種ドライバのインストールとセットアップを行います。
ここで記載されていないドライバのインストールやセットアップについてはドライバに添付の説明書を参照してください。

■ PROSet

PROSetは、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。
PROSetを使用することにより、以下のことが行えます。

- － アダプタ詳細情報の確認
- － ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
- － Teamingの設定

重要 セットアップを始める前に必ず「注意事項」を参照してください。パーティションの作成やダイナミックディスクへのインストールに関する説明があります。

チェック ドライバおよび PROSet に関する操作は、必ず本体装置に接続されたコンソールから管理者権限 (Administrator 等) でログインして実施してください。OS のリモートデスクトップ機能によるリモートからの 設定変更操作はサポートしておりません。

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、システムに耐障害性に優れた環境を提供し、装置とスイッチ間のスループットを向上させることができます。
このような機能を利用する場合は、PROSetが必要になります。PROSetをインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

1. エクスプローラを起動する。

[標準のスタートメニューモードの手順]

スタートメニューから[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[エクスプローラ]をクリックする。

[クラシックスタートメニューモードの手順]

スタートメニューから[プログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。

2. 「<展開先フォルダ名>:\WINNT\W2K3AMD\NS1\PROSet\WS03_32E」ディレクトリ内の「DXSETUP.EXE」アイコンをダブルクリックする。

[Intel(R) PROSet - Installshield ウィザード]が起動します。

3. [次へ]をクリックする。
4. [同意する]をクリックする。
5. デフォルトのままで、[次へ]をクリックする。
6. [インストール]をクリックする。
[InstallShield ウィザードを完了しました]ウィンドウが表示されます。

7. [閉じる]をクリックする。
8. システムを再起動させる。

以上で完了です。

■ ネットワークアダプタの詳細設定

標準装備の2つのネットワークドライバは、自動的にインストールされますが、それぞれ転送速度とDuplexモードの設定が必要です。

また、必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネットワークとダイヤルアップ接続]からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示させて行います。

ヒント サービスの追加で、[ネットワークモニタ]を追加することをお勧めします。[ネットワークモニタ]は、[ネットワークモニタ]をインストールしたコンピュータが送受信するフレーム(またはパケット)を監視することができます。ネットワーク障害の解析などに有効なツールです。インストールの手順は、ユーザーズガイドを参照してください。

<PROSetがインストールされていない場合>

1. 「ローカル エリア接続のプロパティ」ダイアログボックスを開く。

[標準のスタートメニューモードの手順]

- (1) スタートメニューから[コントロールパネル]→[ネットワーク接続]→[ローカルエリア接続](Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection)または(Intel(R)PRO/1000 MT Dual Port Network Connection #2)をクリックする。

[ローカル エリア接続の状態]ダイアログボックスが表示されます。

- (2) [プロパティ]をクリックする。

[クラシックスタートメニューモードの手順]

- (1) スタートメニューから[設定]→[ネットワーク接続]をクリックする。
- (2) [ローカルエリア接続]アイコン(Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection)または(Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection #2)を右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ]をクリックする。

2. [構成]をクリックする。

[ネットワークアダプタのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

3. [詳細設定]タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス]をハブの設定値と同じ値に設定する。
4. ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

<PROSetがインストールされている場合>

1. 「ローカル エリア接続のプロパティ」ダイアログボックスを開く。

[標準のスタートメニューモードの手順]

スタートメニューから[コントロールパネル]→[ネットワーク接続]→[ローカルエリア接続](Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection)または(Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection #2)を右クリックし、ポップアップメニューから[プロパティ]をクリックする。

[ローカル エリア接続の状態]ダイアログボックスが表示されます。

[クラシックスタートメニューモードの手順]

(1) スタートメニューから[設定]→[ネットワーク接続]をクリックする。

(2) [ローカルエリア接続]アイコン(Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection)または(Intel(R) PRO/1000 MT Dual Port Network Connection #2)を右クリックし、ショートカットメニューから[プロパティ]をクリックする。

2. [構成]をクリックする。

[Intel PROSet]ダイアログボックスが表示されます。

3. [リンク]タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス]をHUBの設定値と同じ値に設定する。
4. [Intel PROSet]ダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

<再インストール>

ネットワークドライバを削除してしまった場合は、システムの再起動をすると自動的にインストールされますので、手動でインストールを行う必要はありません。

■FibreChannelコントローラ(N8403-015)を追加接続する場合

システムにFibreChannelコントローラ(N8403-015)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作し、ドライバが自動でインストールされません。システムのアップデートを実施する事でドライバが適用されます。

ヒント FibreChannel コントローラ(N8403-015)は Windows 2000 での接続はサポートしておりません。

■ オプションのネットワークのドライバ

オプションのネットワークボード(N8403-013)を使用する場合について説明します。

「N8403-013」下記の手順を参考の上、NEC差分モジュールに格納されているドライバをインストールしてください。

「N8403-013」の場合

「<展開先フォルダ名>: ¥WINNT¥W2K3AMD¥NS1¥PRO1000¥WS03_32E」

<オプションボード用ネットワークドライバのインストール>

1. デバイスマネージャを起動する。
2. [ネットワークアダプタ]→[Intel(R) PRO/1000~]をダブルクリックする。
[Intel(R) PRO/1000~]ダイアログボックスが表示されます。

ヒント [? その他のデバイス]→[? イーサネットコントローラ]がある場合は
[? イーサネットコントローラ]をダブルクリックしてください。

3. [ドライバ]タブを選択し、[ドライバの更新]をクリックする。
[ハードウェアの更新ウィザード]が表示されます。
4. [一覧または特定の場所からインストールする(詳細)]を選択し、[次へ]をクリックする。
5. [次の場所で最適のドライバを検索する]を選択し、[次の場所を含める]にチェックを入れ、

「N8403-013」の場合

「<展開先フォルダ名>: ¥WINNT¥W2K3AMD¥NS1¥PRO1000¥WS03_32E」

と入力し、[次へ]をクリックする。

ドライバの検索が開始され、検索後にインストールが始まります。
しばらくすると[ハードウェアの更新ウィザードの完了]画面が表示されます。

6. [完了]をクリックする。

以上で完了です。

■ グラフィックスアクセラレータ

標準装備のグラフィックスアクセラレータドライバは、システムのアップデート時に自動的にインストールされます。

■ CD-ROM・DVD-ROMドライバ

N8460-001外付CD-ROMドライブについてはWindowsをインストール後に、ドライバをインストールする必要があります。詳細な手順はN8460-001外付CD-ROMドライブのユーザーズガイドを参照してください。N8460-003 外付CD-ROMドライブについては、ドライバをインストールする必要はありません。N8405-013ブレード収納ユニット内蔵のCD-ROMドライブおよびN8405-020ブレード収納ユニット内蔵のDVD-ROMドライブについても、ドライバをインストールする必要はありません。

■ フロッピーディスクドライブドライバ

N8405-013およびN8405-020のブレード収納ユニットに内蔵のフロッピーディスクドライブを使用する場合は、ブレード収納ユニット添付のCD-ROMに格納されているドライバをインストールしてください。

■アダプタ フォルトトレランス(AFT)/アダプティブ ロード バランシング(ALB)のセットアップ

アダプタフォルトトレランス(AFT)とは、複数のアダプタでグループを作り、使用されているアダプタに障害が発生した場合自動的にグループ内の他のアダプタに処理を移行させるものです。また、アダプティブロードバランシング(ALB)とは、複数のアダプタでグループを作り、サーバから送受信パケットをグループすべてのアダプタから行うことにより、スプールパケットを向上させるものです。この機能はAFT機能を含んでいます。

AFT/ALB機能を使用する場合は以下の手順に従ってセットアップしてください。

1. デバイスマネージャより、ネットワークアダプタのプロパティを開く。
2. チーム化のタグを選択し、「その他のアダプタとチーム化する(T)」にチェックを入れ、[新規チーム]をクリックする。
3. チームの名前を入力後、[次へ]をクリックする。
4. チームに含めるアダプタをチェックし、[次へ]をクリックする。
5. チームモードの選択で、「アダプタフォルトトレランス」、「アダプティブロードバランシング」、のいずれかを選択し、[次へ]をクリックする。
6. [完了]をクリックする。
7. デバイスマネージャより、上記で設定したチーム名のデバイスのプロパティを開き、「設定」のタグを選択し、[チームの編集]をクリックする。
8. チーム内のアダプタで、プライマリに設定する場合、ドライバを選択し、「プライマリの設定)」をクリックする。

チーム内のアダプタで、セカンダリに設定する場合、ドライバを選択し、[セカンダリの設定(S)]をクリックしてください。

両方の設定が終了した場合、[OK]をクリックして画面を閉じてください。

9. 「スイッチのテスト」をクリック後、スイッチのテスト画面が表示されたら、「テストの実行」をクリックして実行する。

実行結果、問題なしのメッセージが表示されれば、テスト完了です。

重 要

- AFT/ALB のセットアップは、ドライバインストール後、必ず再起動した後に行う必要があります。
- アダプタ フォルトトレランス(AFT)のグループとして指定するアダプタは、同一ハブ、異なるハブのどちらの接続でも使用できますが、異なるハブに接続する場合は、すべて同一 LAN (同一ネットワーク) 上に存在する必要があるため、カスケード接続にしてください。
- アダプティブ ロード バランシング(ALB)を使用する場合は、スイッチングハブにのみ接続できます。

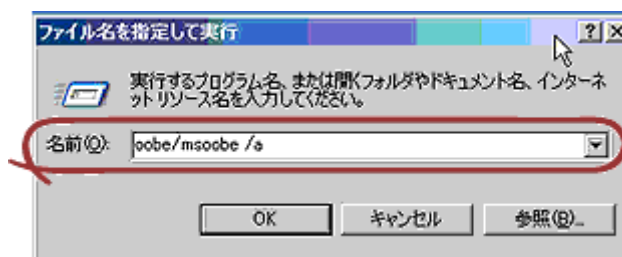
ライセンス認証の手続きについて

Windows Server 2003 R2 x64 Editionsをご使用いただくためには、Windows Server 2003 R2 x64 Editionsのライセンス認証の手続きが必要です。ライセンス認証の手続きを次に示します。

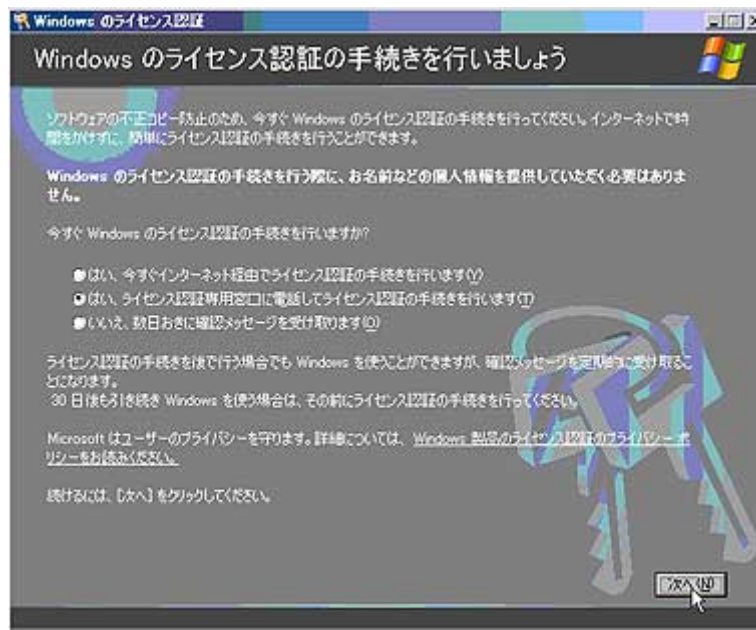
ヒント バックアップ CD-ROM をご使用の場合は、手続きの必要はありません。

1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。
[名前(O):]に以下を入力し[OK]をクリックする。

oobe/msoobe /a



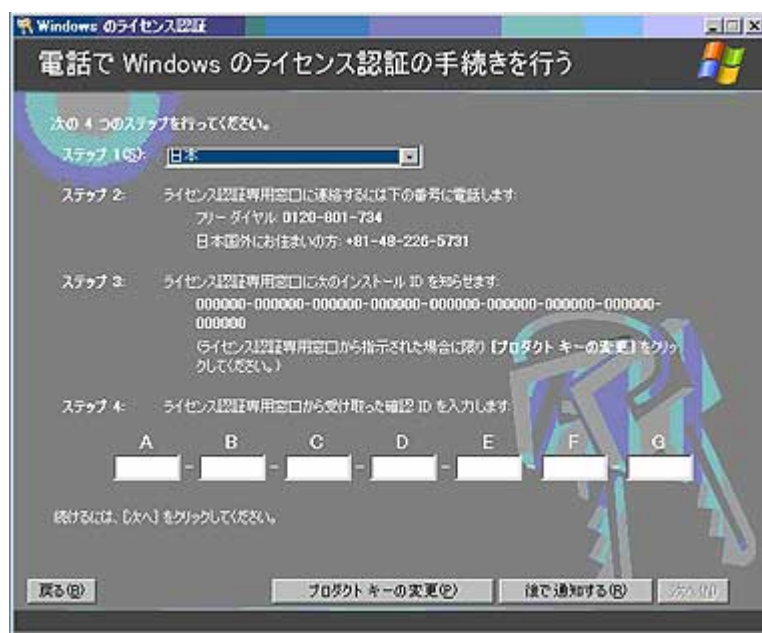
2. 以下のメッセージが表示されたら、[次へ]をクリックする。



以下のメッセージが表示されます。

新しいインストール ID を生成しています...

3. 以下のメッセージに従って、ライセンス認証の手続きを行う。



障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

■ メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

本体内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。

重要

- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
- ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

次の手順に従って設定します。

1. スタートメニューから[コントロールパネル]を選択し、[システム]をクリックする。
[システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
2. [詳細設定]タブをクリックする。
3. [起動と回復]ボックスの[設定]をクリックする。
4. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。

＜Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合＞
D:¥MEMORY.DMP

ヒント

- デバッグ情報の書き込みは[完全メモリダンプ]を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが 2GB を超える場合は、[完全メモリダンプ]を指定することはできません(メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ]を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+1MB 以上の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが2GBを超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを[カーネルメモリダンプ]に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

5. [パフォーマンス]ボックスの[設定]をクリックする。
[パフォーマンスオプション]ウィンドウが表示されます。
6. [パフォーマンスオプション]ウィンドウの[詳細設定]タブをクリックする。
7. [仮想メモリ]ボックスの[変更]をクリックする。
8. [選択したドライブのページングファイルサイズ]ボックスの[初期サイズ]を推奨値以上に変更し、[設定]をクリックする。

重要

- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報（ダンプファイル）採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 「推奨値」については、「作成するパーティションサイズについて（6 ページ）」を参照してください。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルを再設定してください。

9. [OK]をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

■ ワトソン博士の設定

ワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッグです。アプリケーションエラーを検出するとシステムを診断し、診断情報（ログ）を記録します。診断情報を採取できるよう次の手順に従って設定してください。

1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。
2. [名前]ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK]をクリックする。
[Windows ワトソン博士]ダイアログボックスが表示されます。
3. [ログファイルパス]ボックスに診断情報の保存先を指定する。
「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。

チェック

ネットワークパスは指定できません。ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. [クラッシュダンプ]ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。

ヒント

「クラッシュダンプファイル」は Windows Debugger で読むことができるバイナリファイルです。

5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

- － ダンプシンボルテーブル
- － すべてのスレッドコンテキストをダンプ
- － 既存のログファイルに追加
- － クラッシュダンプファイルの作成

それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. [OK]をクリックする。

トラブルシューティング

Express5800 シリーズが思うように動作しない場合は修理に出す前に次のチェックリストの内容にしたがって Express5800 シリーズをチェックしてください。

リストにある症状に当てはまる項目があるときは、その後の確認、処理にしたがってください。それでも正常に動作しない場合は、ディスプレイ装置の画面に表示されたメッセージを記録してから、保守サービス会社に連絡してください。

なお、ここに上げている症状は Windows Server 2003 R2 x64 Editions にて新たに発生するトラブルシューティングです。その他の症状につきましては、お手持ちのユーザーズガイドを参照してください。



Windows Server 2003 R2 の運用中、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース : IPMIDRV
種類 : エラー
イベント ID : 1001

説明 : IPMI デバイスドライバは、IPMI BMC デバイスがシステムでサポートされているかどうか判断しようとしていました。このドライバは、SMBIOS の Type38 レコードを検索できることで IPMI BMC を検出しようとしていましたが、レコードが見つからないか、レコードにデバイスドライバのバージョンとの互換性がありませんでした。SMBIOS の Type 38 レコードが見つまっている場合は、イベントの Dump Date フィールドにこのレコードがバイナリ表示されます。

→ Windows Server 2003 R2 において提供されている「ハードウェアの管理」を利用している場合、上記のイベントログが登録されます。詳細な内容については、下記サイトにある「Windows Server 2003 R2 で提供される「ハードウェアの管理」利用の手引き」参照してください。

[NEC 8 番街:テクニカルインフォメーション]

<http://www.express.nec.co.jp/care/techinfo/techinfo.html>



Telnet サービスがインストールされていない

コンピュータ名を 14 文字以下にして、<Telnet サービスのインストール手順>に従って Telnet サービスをインストールしてください。

<Telnet サービスのインストール手順>

1. スタートメニューから[ファイル名を指定して実行]をクリックする。
2. [名前]ボックスに「tlntsvr /service」と入力し、[OK]をクリックする。
3. スタートメニューから[コントロールパネル]-[管理ツール]-[サービス]を開き、サービスの一覧に Telnet サービスが登録されていることを確認する。

→ Telnet サービスのインストール後は、コンピュータ名を 15 文字以上に設定しても問題ありません。



運用中に、システムイベントログに次のような内容のエラー、および警告が記録される

イベント ID : 11
ソース : IANSMiniport
種類 : 警告
分類 : なし
説明 : 次のアダプタリンクは接続されていません。
Intel(R)PRO/1000 ~

イベント ID : 13
ソース : IANSMiniport
種類 : 警告
分類 : なし
説明 : Intel(R)PRO/1000 ~ がチームで無効化されました。

イベント ID : 16
ソース : IANSMiniport
種類 : エラー
分類 : なし
説明 : チーム#0、最後のアダプタはリンクを失いました。
ネットワークの接続が失われました。

イベント ID : 22
ソース : IANSMiniport
種類 : 警告
分類 : なし
説明 : ライマリアダプタはプローブを検出できませんでした。
Intel(R)PRO/1000 ~
原因でチームが分割されている可能性があります。

→ Teaming の設定をした場合、システム起動時に上記のイベントログが記録されますが、LAN ドライバの動作上問題ありません。